



期待と不安に胸をふくらませ、これからの一年間を共にするクラスメイトの顔や名前を必死に覚えていたことを思い出す。私はこの数カ月間に多くのことを学んだ。

その一つは、いろいろな人と話し、関わることの大切さだ。私は中学校に入学する前、クラスの人と仲良くできるか、不安だった。しかし、友達をつくりたいという思いが強かったので、勇気を出して話しかけてみた。するとその子は笑顔になって、私たちは友達になった。初対面の人に話しかけるのは、とても緊張したけれど、私は友達ができるとてもうれしかった。

また、私は人との関わりというのは、友達だけではないことに気づかされた。中学生になって一番関わりが増えたのは先輩という存在だ。小学生の時は、学年が違って先輩、後輩という関係ではなく、友達という存在だった。しかし中高の部活動では、分からないことは全て先輩が教えてくれる。そんな先輩に敬語を使ったり、先輩に言われる前に全体のことを考えて行動したりすることで、目上の人を敬いながら同じ時間を過ごすことを学んだ。

中学校に入学してから、勉強と部活動の両立や、すべて自分で計画を立てて行う定期テストの勉強など、大変なこともたくさんあった。その反面、仲間と協力して勝利を目指す球技大会や、新たにできた友達と過ごす、楽しい休み時間など、幸せな時間もたくさんあった。

これから大変なことがあっても、いろいろな人と一緒に関わりながら、楽しむ気持ちを忘れていって過ごしていきたい。

